【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

+	1
利(百)/+) 日シ	
	ロルル

学校の概要

学校名	大石田町立大石田第一中学校								
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数			
学級数	2	2	2	1	7	1.6			
生徒数	6 5	6 7	7 7	2	2 1 1	16			

研究の概要

1. 研究主題

生 涯 に わ た っ て 学 び 続 け る 生 徒 の 育 成 個 に応 じた指 導 を 通 し て

2.研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・ 全学年 , 全教科において「個に応じた指導」に重点を置いて指導方法の工夫改善に努める 学力向上の土台は毎日の授業の積み重ねである

その中で特に

· 全学年全時間数学・英語 TT

個人差の大きい教科であり、より個に応じた指導を行うため

・ 全学年選択数学・選択英語において補充コース・発展コース開設 個人差の大きい教科であり、より個に応じた指導を行うため

(2) 年次ごとの計画

テーマ

生 涯 に わ た っ て 学 び 続 け る 生 徒 の 育 成 個 に応 じた 指 導 を 通 し て

仮説

〔仮説 1〕

意欲関心を引き出す教材の開発や,提示の仕方を工夫することによって,生徒は意欲的に授業に参加し,主体的に課題を追求するであろう。

[仮説 2]

指導法・学習形態を工夫し、個に応じた指導をすれば、生徒一人ひとりが主体的に学習する意欲をもつことになり、学び方が身につくであろう。

〔仮説 3〕

生徒の活動や学力を適切に評価して支援することにより,学習内容が高まり,生徒は満足感や成就感を味わい,次の学習への意欲をもつことができるであろう。

研究内容・方法

- ・ 単元構成や指導過程の工夫,課題設定や資料提示の工夫,教材・教具の開発と発問の工夫を行い, 意欲を引き出し,生徒の理解や習熟の程度に応じた指導に取り組む。
- ・ 学習活動や学習形態,指導形態の工夫改善を行う。特に数学,英語の必修教科においてはTTの時間を多く設定し,効果的な学習形態や授業の展開の研究を進める。また,数学,英語の選択教科においては補充・発展の両コースを開設し,習熟度別少人数指導を実践する。
- ・ レディネスの結果を活用するとともに ,小テストを実施し次時へのステップとするなど評価活動 や支援活動を工夫する。
- 1 年間を見通した全体研修計画を立て,全教職員で研究の推進を図る。また,校内授業研究会の充実を図るとともに,教科部会を計画的に持ち,それぞれの実践を積み上げて研究を推進する。

平成14年度

テーマ

生 涯 に わ た って 学 び 続 け る 生 徒 の 育 成 個 に応 じた 指 導 を 通 し て

仮説

- (1)魅力的な課題提示や個々の生徒の興味関心に応じる教材・教具を開発する。
- (2) ねらいを明確にして個に応じた指導方法を工夫する。
- (3) 規準を明確にして適切に評価・支援する。
- (1)~(3)を意図的に単元や授業に組み入れ,実践を重ねていけば,生徒一人一人の力を伸ばし,満足感や成就感を味わわせて,次の学習への意欲をもたせることができるであろう。 研究内容・方法

研究テーマ・目指す生徒像・仮説を具体化するため,各教科の「目指す生徒像」「仮説具体化の 方策」を設定する。

数学,英語の必修教科においては全学年全時間を2人体制(TT)で配置し,効果的な学習形態や授業の展開の研究を進める。一斉指導のよさも生かしながら ねらいと生徒の実態に応じて少人数指導を実施していく。

選択教科においては,多様なコースを開設し,それぞれの生徒に適した選択教科が履修できるようにする。特に数学・英語については全学年で基礎・発展の両コースを開設し,理解や習熟の程度に応じた指導を行う。

全体での授業研究会を年4回実施し、授業実践を行いながら、授業内容の改善を図る。 各教科で個に応じた指導のあり方に迫る。特に数学、英語では TT による指導形態の工夫改善を行い、より効果的な指導のあり方を探る。また、単元の指導計画の中に少人数指導の時間を計画的に設定する。これまでの研究の中間発表を行う。

テーマ

生 涯 に わ た っ て 学 び 続 け る 生 徒 の 育 成 個 に応 じた 指 導 を 通 し て

平 成

16

年

度

仮説

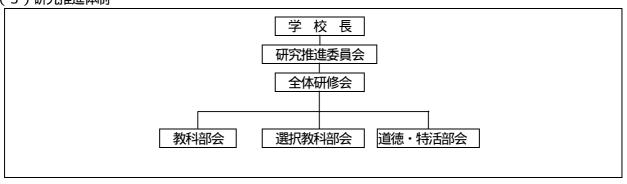
- (1)魅力的な課題提示や個々の生徒の興味関心に応じる教材・教具を開発する。
- (2) ねらいを明確にして個に応じた指導方法を工夫する。
- (3) 規準を明確にして適切に評価・支援する。

(1)~(3)を意図的に単元や授業に組み入れ,実践を重ねていけば,生徒一人ひとりの力を伸ばし,満足感や成就感を味わわせて,次の学習への意欲をもたせることができるであろう。

研究内容・方法

各教科でさらに個に応じた指導のあり方を探る。数学・英語では,少人数指導のグループ分けの工夫や評価の工夫をする。公開研究を実施し,研究のまとめを行う。

(3)研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1.研究の成果

- ・ 習熟度別少人数指導の実施にあたっては , 学習内容や生徒の実態を考慮して弾力的に行うことができた。 昨年度と比較すると , 発展コースの生徒については「コース別学習は自分の学習に役立っていると感じていない」のが 27.6%から 7.4%に減った。これは昨年度の意識調査を受けて , 発展コースの学習課題や学習活動をより吟味したことが成果をあげているといえる。
- ・ 効果的なTTのあり方を模索してきたが,一斉指導の場面と個別指導の場面に分けて実践できた。また, 毎時間の授業を反省しながら授業改善のアイディアを出し合えた。
- ・ 学習課題を吟味することで , 生徒の活動 (学習) 意欲が増した。生徒一人ひとりが (自分のペースで取り組める) 教材を得ることで , 意欲を高めることができた。また , グループごとに課題が選択できるということでも , 十分に意欲は高められた。
- ・ 各教科で目指す生徒像をかかげ,仮説を具体化する方策が検討された。また,そのことによって,各教科で工夫ある取り組みを実践することができた。

2.今後の課題

- ・ 課題提示 , 教材教具 , 指導法を開発・工夫することで興味・意欲の喚起という点はかなり達成されてきた。 今後は , 思考力を高め , 定着させる工夫をしていく必要がある。
- ・ 単純に個別教材を与えても , ねらいの明確化に結びつきにくい。(個別にすればするほど , 統一的な知識の 定着が難しくなる。) 年間を通して , どの単元で , また , 単元のどこで与えるかを吟味する必要がある。
- ・ 個に応じるために , 評価の方法を検討する必要がある。

学力把握のための学校としての取組

- ・ 毎時間の簡単な小テスト,自己評価,単元テスト,定期テストで意欲や定着度を確認するとともに,標準学力テストを実施する。(年1回,4月)
- ・ 意識調査 (アンケート)を実施し,学習意欲や充実感を把握する。(7月,10月,2月)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成15年11月7日 中間発表会(授業公開による研究協議会)
- ・県義務教育課 Web ページ, 新教育課程指導資料「生きる力を育てる教育課程」(第5集)掲載
- ・平成 16 年 11 月 5 日 公開研究発表会

次の項目ごとに , 該当する箇所をチェックすること。 (複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 レ14年度からの継続校

【学校規模】 4~6学級

レ7~9学級 10~12学級

13~15学級 16学級以上

その他

【研究教科】 レ国語 レ社会 レ数学 レ理科

レ外国語 レ音楽 レ美術 技術・家庭

レ保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 レ有 無